

第53号  
2025年 10月31日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail:kouhou@kbshinsei-j.org  
  
○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

# 「神戸真生塾創立135周年を迎えて」

社会福祉法人 神戸真生塾  
児童養護施設 神戸真生塾 理事長・施設長 上杉 徹



にて住み込みでノウハウを学び、神戸に持ち帰って始めたのが神戸真生塾の前身である「神戸孤児院」です。

昨年5月の創立記念日の礼拝にて次のような話をしました。「誕生日おめでとう！今日は誰の誕生日かわかるかな？今日は神戸真生塾の誕生日です。正確には5月23日が誕生日ですが、その日に近い日曜日に「創立記念日礼拝」を行っています。今日は実はもう一つの誕生日でもあります。それは「教会」の誕生日です。難しい言葉だけれど「ペンテコステ」と言います。もう一つ神戸真生塾と教会が生まれた時には共通のことがあります。それは、何でしょうか。わからないよね。それは何かというと、たくさんの人たちのお祈りと献金で生まれたということです。今日は世界中の教会で「ペンテコステ礼拝」をしています。「教会の誕生日」をお祝いしています。イエスさまがいなくなって、お弟子さんたちは元気がなくなりまし

た。イエスさまと同じように、困っている人、病気の人が、いろいろな子どもたちのお世話をしようとしていましたが、元気がでませんでした。しかし、このペンテコステの日に、突然温かい風が心に吹き込んできて、それぞれが元気になるってイエスさまと同じように周りの人で困っている人がいたら助け、病気の人のお世話をし、子どもたちを守り始めました。礼拝のお話を聞いて良い世の中になるように、周りの人々が元気になるような人がたくさん増えるようにとたくさんの方の祈りと献金で生まれました。

神戸真生塾は、子どもたちが安心して生活できる場所を作りました。神戸市内の神戸教会をはじめ、たくさんの方の教会の人たちが少しずつ献金を出し合っただけで、神戸教会もアメリカに住むキリスト教の信徒の皆さんが少しずつ献金を出し合っただけで、神戸に教会を作ってください、礼拝に出て周りの人が元気になるような人が増えますようにと、たくさんの方々の祈りに支えられて生まれました。

神戸真生塾は設立の時から「その時代の社会課題に向き合ってきた施設」です。30年前の阪神・淡

路大震災の後は、世界中のロータリークラブから寄せられた義援金をもとに、被災家庭の子どもの一時的保育と、被災した母子や女子留學生を受け入れるロータリー子どもの家（ロータリーフレンドシップハウス）の運営を担いました。震災後の緊急の役割を終えた後は、地域の子育て支援を担いました。18年前には、隣接地の公立幼稚園の2階の遊休教室を利用しての待機児童解消のための「真生きらきら保育園」の開設、垂水区の神戸市立児童養護施設の閉園に伴い、施設退所後に就職しましたが、仕事も住むところも失った子どもたちの再就職のための「自立援助ホーム子供の家」、地域の子どもたちのための小児科診療所「愛こどもクリニック」そして病児・病後児保育を担う「カンガルー」など、その時代毎の課題に対して活動を提供して参りました。この7月からは「養育里親リクルート事業」も始めます。社会的養護を必要とする子どもたちのために「より家庭的な養育を提供する」ために養育里親の推進と支援を担っていきます。

引き続き、多くの方々のご支援が必要です。ご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



神戸真生塾が誕生して今年で135年を迎えました。明治維新以降、急激に都市化が進んだ神戸の街で今の時代と同じように米価が大暴騰しました。当時はそのことで多くの窮民が街中に溢れかえることとなりました。今で言うホームレス、路上生活者の支援を、当時、日本に入ってきたキリスト教の信徒の集まりが、義援金を出し合っただけで「神戸貧民救済議會」を立ち上げ、行路病者を含む収容保護事業に着手したことが始まりです。その際に、もう一つシリアスな課題がありました。それは、路上で子どもたちだけで生活する、今で言う「ストリートチルドレン」がたくさんいました。それを見た初代の理事長・施設長であった矢野毅が岡山県にある石井十次の設立した「岡山孤児院」

社会福祉法人 神戸真生塾

2025年度

事業計画

2025年度 重点課題

『法人内各事業所の連携の強化』

2024年度は各事業所において「風通しの良い組織作り」を目標に、対話できる環境を目指して取り組んできました。トッパーリーダーの交代等もあり、少しずつ前に進んでいくことができています。また、乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センターについては昨年11月より「接遇研修」を開催し、神戸真生塾として職員が一丸となり、同じ方向を向いて業務に携わり、子どもを中心とした利用者への関わり方を学んでいます。2025年度も引き続き新任やベテラン、職種が異なっているもお互いが意見を出しやすい雰囲気の中で、カンファレンスやミーティング、会議の中で維持していくことを、引き続き求めていきます。このことよって組織力を高め、施設内からあらゆるハラスメントと誤解を受けけるような言動や態度を無くしていきます。

答えのない時代に答えを求めるために『対話』を通してより良いアイデアを出し、社会のニーズに応える組織を目指します。

**乳児院（真生乳児院）**

2025年度も定員30名での事業を進めます。家庭養育推進の政策では、一時保護期間中に家庭復帰できるように進められ短期間にて家族再統合を目指すこととなります。そして必要時にはショートステイの利用を推進し、在宅にて子育てが成立するように図って参ります。この一連の流れに沿って乳児院のクラス編成を変える必要に迫られ、また子育てリフレッシュ事業につきましてもこれまで以上の推進を図っていく予定です。

乳児院では1クラスを一時保護児童のみとして5クラス（1クラス5名or6名まで）を措置児童向けとして構成します。そして感染予防と安全確保のための乳児クラス（0ヶ月〜4ヶ月未満）を無くして、今年度より全クラス縦割りクラスとし、子どもの構成と養育者の固定によるパーマネンシーの保証を確保します。今後、一時保護児童の利用の推移を見ながら養育環境の提供を柔軟に検討していく必要も求められますが、柔軟に対応して参ります。

児童養護施設（神戸真生塾）

重点課題として(1)「人財確保・

定着・育成」ではあらゆるハラスメントを防止し風通しの良い組織を目指すこと。(2)「事業の見直し、改革を進める」では事業継続計画（BCP）の策定に留まらず、あらゆる状況を想定し、それに基づく準備・訓練を行うこと。(3)「自立支援の取組強化・定着」では措置延長や2歳までの支援継続および退所後の相談援助の基本方針を再構築すること。子どもの権利擁護の考え方を基に高校・大学等への進学、就職についてはたくさんの選択肢や情報を提示しながら自己決定できるように支援すること。そして高校・大学等の中途退職の早期退職とならないように、インケアにおいて、職場体験や様々なボランティアとの交流などの経験を通して予防的ケアとなるように研究・実施することなどの3点を挙げています。

**児童家庭支援センター（神戸真生塾 子ども家庭支援センター）**

当センターは児童家庭支援センターとして認可を受けて20年目となり、相談件数や児童相談所からの委託、機関連携等着実に積み重ねてきましたが、職員の入れ替わり等もあり、今一度、基本業務に立ち戻ってソーシャルワーク機関としての働きを丁寧に行ってまいります。また、児童家庭支援センターは要保護児童や要支援児童

の支援をしており、その多くが、小児期逆境体験（Adverse Childhood Experiences）を経験した子ども達であり、その影響を和らげる保護的・補償的体験（Protective and Compensatory Experiences）を意識した支援を進めていきたいと思います。

幼保連携型認定こども園（真生きらきら保育園）

こども家庭庁より、こども基本法が施行されて2年が経過しました。「こどもみんなな社会」としてこどもの育ちについて議論され、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的ビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）に基づく施策が進められています。その大切な乳幼児の育ちに関わる保育園として、意識も新たに保育を進めていきます。また、保育の見える化として、ICTを利用して、ドキュメンテーション等、園での子どもの様子を配信しています。定期的な子どもの記録、保育事務を見直しながら、子ども記録から一人ひとりの子どもの成長を共有し、保育事務の軽減に取り組んでいきます。2025年3月卒園の子どもたちは、コロナ禍の中、制限の多い保育園生活を経験しました。卒園を前に子どもたちに保育園ができることがもつとあったのではないかと思うことがあり、限られた乳幼児

さを感じました。子どもの育ちに視点を置き、子どもの成長を通して、保護者に寄り添えるように、子どもの育ちを見守りながら、職員が子どもの成長を話し合える場を設けることを意識して保育を進めていきます。

児童生活支援事業

（神戸市児童自立援助ホーム 子供の家）

この4月より神戸市指定管理業務として2年の更新を行います。昨年度の神戸市からの指導を基に業務の見直しを行い、2025年度を起点として、今後の自立援助ホーム運営や将来計画についての策定を行ってまいります。

全国的に家族の在り方、家庭内の課題が深刻化する中において自立援助ホームの役割は施設退所児童に限らず、一般家庭からの入所も増えています。児童養護施設、自立支援施設、心理治療施設、ファミリーホーム、里親では受け入れられない、行き場のない子どもたちの居場所として自立援助ホームの役割を発信していく一年としてまいります。

年間150ケースを超える入所・一時保護相談があり、各関連機関との連携を今まで同様に、子どもたちが安心して笑顔で過ごせる居場所であり続ける努力をしています。



# 児童養護施設 神戸真生塾

## ホームクッキング



神戸真生塾では、食事が食卓へ並ぶまでの過程を知り、調理の方法や火気、調理器具の取り扱い等を学び習得することを目的とし、月2回、各部屋で児童と職員でメニューを決め、買い物へ出掛け食材を購入し夕食を作る、ホームクッキングという日があります。

子ども達が食べたいメニューを決め、料理本を見ながら必要な材料を書き出し、スーパーにて購入という流れが最近が多いです。

神戸真生塾では、食事が食卓へ並ぶまでの過程を知り、調理の方法や火気、調理器具の取り扱い等を学び習得することを目的とし、月2回、各部屋で児童と職員でメニューを決め、買い物へ出掛け食材を購入し夕食を作る、ホームクッキングという日があります。

子ども達が食べたいメニューを決め、料理本を見ながら必要な材料を書き出し、スーパーにて購入という流れが最近が多いです。

が完成すると皆で食卓を囲み、美味しい料理をみんなで褒め合ったり、改善点を見出したりと楽しいひと時を過ごしています。

回数を重ねる毎に子ども達の成長が見られ、

職員にとっても様々な学びがあるため、とても良い機会となっています。

児童指導員 足立 美優

## 創立記念お祝い会



5月18日、天候にも恵まれた中、今年も神戸真生塾の創立135周年のお祝い会を入所児童を始め、退所生や旧職員、役員の皆様方と一緒にお祝いすることができました。感謝礼拝では、高校生が聖書を、賛美歌は皆で賛美し、心静かに礼拝のひと時を過ごした後、お祝い会は昨年同様にホールに皆で集まることができ、久しぶりの再会に

少し緊張しながらも、昼食は栄養士の方々が作って下さったカレーライスを、皆で美味しく頂きました。

退所生の方に、子ども達からの質問に答えていただく時間もあり、昔と今の違いや変わらないことなどもあることを知ることができ、子ども達も目をキラキラとさせ話を聞いている姿が印象的でした。

昨年は雨天のため、行けなかった子ども達もいましたが、今年も鶴越墓園で墓前礼拝を行うことができ、参列者全員で墓石の周りを掃除したり、お花を供えることもできました。お墓掃除をするのが初めての子どももおり、良い経験となったと感じています。



最後になりますが、神戸真生塾に関わって下さっている皆様をおかげで、無事に135周年を迎えることができました。本当に感謝しております。これからも神戸真生塾は、子ども達と共に歩んでまいります。そして、また来年皆様方と創立記念日のお祝いができることを楽しみにしております。

保育士 黒田 祐加



# 乳児院 真生乳児院

## まんまひろば

2023年5月から毎月第3水曜日に地域に向けた子育て広場『まんまひろば』を開催して

います。毎月プログラムを決め親子が楽しめる遊び（絵本の読み聞かせ・ふれあい遊び・リトミック・季節に合わせたイベント・工作等）を提供しています。主に0歳児〜3歳児とその保護



者の方が気軽に利用されています。

まんまひろばでは子どもが生まれたことをきっかけに大きく変化する保護者の方の生活環境や不安感に寄り添いながら乳児院のノウハウを活かし、子育て家庭と地域をつなぐ役割をしています。乳幼児と保護者が気軽に集まり交流し、子育ての孤立を防ぐため子育て情報を提供し、子育てに関する悩みを看護師、栄養士、心理士等と一緒に話し一人ひとりに寄り添った関わりを行っています。ありのままの今のあなたのまんまで、子どもも多くのまんまで、子ども達が多くの人と出会い、たくさんの人に愛されながら地域で子育てができる場所となりますように、そん

な願いを込めて『まんまひろば』と名付けました。これからもより多くの方々にインスタグラム等で発信しながらまんまひろばを知っていただき、地域の方にたくさん遊びに来ていただ

## 楽しいプール遊び

8月の暑い日々、「今日はプールする？」とお部屋の中から声が聞こえてきます。子どもたちはプール遊びが大好き。職員は「プールしようか」の声と共に「プールの水着へとお着替えが始まります。水着に着替えるとペランダのプールへ一直線。プールに浸かるとともに「つめたーい」や「きもちいいね」の声も聞こえてきます。A君はじょうろでコップやお皿にお水を注ぎジュース屋さんを始めました。「いらっしやいませ。今日は何のジュースにしますか？」と言いながらお水をまぜまぜ。あつという間にオ

けるよう楽しいイベントを計画し、心がほっこり自然と笑えることができるそんなまんまひろばを開催していきたいです。

保育士 安 優美子



上がりです。その他にもお友達やお姉ちゃんに、いちご味やぶどう味など様々な味のジュースをごちそうしてくれました。少し特別な日は二階のプールに遊びに行きます。子どもたちは二階のプールにある滑り台を滑ることをとても楽しみにしています。初めて滑り台を滑る子どもの顔には少し緊張が見られます。しかし、お部屋のお兄ちゃんお姉ちゃんの楽しそうな姿を見て挑戦してみると「わー」と大きな声と共に満面の笑みで滑ることができました。

お部屋に戻りおいしいお昼ご飯を食べた後はお昼寝。皆幸せそうな顔で寝ています。プール遊びとても楽しかったね。またプールで遊ぼうね。

保育士 野中 いちご



# 幼保連携型認定こども園

## 真生きらきら保育園

### 暑い夏

本当に毎日暑い日が続いており、朝の挨拶は、「今日も暑いですね。」で始まります。暑くても、子どもたちは、園庭に出ると砂場や遊具で遊んだり、友だちと虫探しを楽しんだりして汗をいっぱいかいて遊んでいます。今年の夏も「猛暑、酷暑」と言われています。熱中症にも注意しながら夏ならではの水遊びを楽しんでいます。

小さいクラスの子どもたちも園での生活に慣れて、園庭に出ると分かると靴下をはこうとしたり、靴を持って来たりする可愛い姿が見られます。園庭に出ると築山や砂場にまっしぐらに走って行こうとしています。お外での好きな場所、好きなあそびを見つけて遊ぶときの表情は目がキラキラしています。そんな子どもたちを見守っている保育教諭も自然と笑みがこぼれ幸せな時間を過ごしています。

年長児は、お泊り保育を実施しました。キャンプごっこを想定して、子どもたちはグループ毎にテントの設計をしてテントづくりやクッキングでカレー作りや花火等、盛沢山の楽しいことを経験しました。

7月から、保育園で「こども誰でも通園制度」がスタートしました。全ての子どもへの育ちを応援し、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらずい形での支援のために創設された新たな通園制度です。子どもの育ちを支えるお手伝いができることを願っています。

園長 橋本 美記代



### もも(1歳児)

園庭には真っ赤なバラが咲きみだれ、子どもたちが大好きなダンゴムシも顔を見せる時期になってきました。少し動くと汗をかいている子どもたちです。水分補給と休憩時間を十分に取って、健康に過ごせるようにしていきたいと思います。

子どもたちが大好きな「アンパンマン」の遊び。最後の「月きらきらきらきら ぼく チーズ わんー」の「わんー」を大きな声で言っています。お友だちと「あーあー」「うーうー」と楽しそうに声を出して追いかけてっこをしていたり、顔を見合わせて何やらお喋りをしてケラケラ笑っていたりする姿を見ると「乳児語翻訳機が欲しい」と思います。かわいい笑顔がたくさんですが、自我が芽生えてきている中でまだまだ言葉で伝えることが難しくお友だちの体を力強くにぎってしまったら、体や手足の動きも大きくなってきているため、玩具を渡そうとしたら顔に当たったりということも増えてきます。大きな怪我やトラブルにならないようこれからも見守っていききたいと思っています。

保育士 川内野 裕子  
澤 亜実

朝の礼拝 (もも組)



朝の礼拝 (さくらんぼ組)



### りんご(4歳児)

新緑の若葉にすがすがしさを感ずる季節になりました。

5月は、めろん組と一緒に大倉山公園へ遠足に行きました。りんごぐみにとっては、初めての遠足で、前日からとても楽しみにしていた子どもたちでした。当日を迎え、朝からお弁当のおにぎりが気になって仕方なかった子どもたち。公園に着くなり「おにぎりがたべた。食事の時に聞いていました。」

間が来ると、友だち同士でおにぎりを見せ合い嬉しそうに食べる姿がありました。

また下旬には、食育保育参観がありました。保護者の方と一緒に遊んだり、給食と一緒に食べたりして喜んでいた子どもたちでした。

保護者の方からは、「保育園で過ごす子どもの様子がみられてよかった」「保育園の給食美味い！」というお言葉をいただきました。暑さと湿度が高くなりやすい時期になってきました。快適に過ごせるよう気を付けながらのびのび遊びを楽しめるようしていきたいです。

保育士 岡村 孝美  
新居 麻琴



野菜を植えたよ



青虫見つけて飼育中

# 新任職員紹介

## 児童養護

千葉 紗優姫



〔趣味〕 読書、絵を描くこと

〔特技〕 絵を描くこと

〔抱負〕 子どもたちが出会えて良かったと思えるような、信頼できる大人になりたいと思います。まだ分からないことばかりですが、積極的に質問するなど一生懸命頑張りたいです。

安田 柊牙



〔趣味〕 サッカー観戦

〔特技〕 運動（球技）

〔抱負〕 子どもたちが生活しやすいと思えるように、関わる事ができたらと思います。サッカーが好きなので、サツ

## 乳児院

岡田 菜月



〔趣味〕 推し活、ハンドメイド

〔特技〕 水泳、歌を歌うこと、緩いイラストを描くこと

〔抱負〕 未経験で調理員として入社し、まだまだ経験もスキルも未熟なので、これから調理や食の知識を学び、二年後に調理師の資格をとります。また、日々精進し成長していきます。

中西 美釉



〔趣味〕 音楽を聴くこと

〔特技〕 水泳

〔抱負〕 子どもたち一人ひとりと丁寧に関わり、楽しい日々を過ごしていきたいです。笑

深澤 有希



〔趣味〕 食に関する事（ガーデニング）

〔特技〕 何事にもそつなく対応できる性格です。

〔抱負〕 子ども達と仲良くなり、喜んでいただける安心安全な食事作りに取り組みます。食育活動により直接触れ合うことで食することの楽しみを増やし、興味を持つきっかけ作りに努めます。

## 真生きらくきり保育園

甲木 理紗



〔趣味〕 お菓子作り

〔特技〕 早寝早起き

〔抱負〕 子どもたちと過ごす時

間を大切に、一人ひとりの気持ちに寄り添っていきけるように努めます。慣れないことも多くありますが、子どもと一緒に成長していきたいと思っています。

## 子ども家庭センター

三木 由佳梨



〔趣味〕 お菓子作り、パン作り

〔特技〕 絵を描くこと（模写）

〔抱負〕 支援者として目の前の方の気持ちに寄り添いながら安心できる存在になると共に日々学びの姿勢をもつことを忘れず、社会や家庭のニーズに柔軟に対応できる者でありたいです。



# ありがとうございました

敬称略・五十音順

(二〇二五年一月一日〜二〇二五年六月三十日)

## 寄付金

- 安西真由美
- 上杉徹
- 數田紀久子
- 学校法人 神戸女学院
- 加波
- 関西学院高等部
- 関西学院 宗教活動委員会
- (株)大古會
- 倉石哲也
- 神戸栄光教会
- 神戸教会 教会学校
- 神戸昇天協会
- 神戸女子大学
- 神戸聖愛教会
- 頌栄幼稚園
- 住元淳子
- 住元義則
- 瀬沼民子
- 捜真女学校中学部高等学部
- 促進協会
- 玉川聖学院
- 東洋英和女学院
- 富川浩子
- 友藤喜久子
- 鳥井順子

## 寄贈

- 鳥京
- 難波美智子
- 日本キリスト教団 神戸教会
- 日本聾話学校
- 日本児童養護施設財団
- 福田加奈
- 堀川文江
- 松本緑
- 宮本美恵子
- 安田真由美
- 綿谷栄子
- 24時間テレビ
- 一般財団法人muder
- 大社貴子
- 池田好盛
- 後出ともみ
- (株)チュチュアンナ
- 神果神戸青果(株)
- 神戸市社会福祉協議会(赤ちゃん本舗)
- 神戸ポートタワーホテル
- 郡
- 重田サヤカ
- 外山陽子



- チルドレンストーリーヒーデ
- 日本ジッパパーチュービング(株)磯村
- 日本プロ麻雀協会 米崎奈棋
- P&Gジャパン合同会社
- ヒキタ青果
- 引田実
- 広瀬俊道
- フイブイントラロジステイクス(株)
- 吉田真弓
- ロイヤルミヤビ中塚恵子

## いじものつぶやき

「中庭の木にブニブニしててクラゲみたいな名前キノコが生えていたで！」

それは、「きくらげ」かな？本当にきくらげだったら食べられたのにね。

(男子Kさん)

最近、俳句にはまっているKさん、「おにぎりは 握った分だけ 愛情だ」季語はないけど素敵な俳句ができました。

(女子Kさん)

「どろぼう」のことを「どぼろう」、「ポップコーン」のことを「ポックポーン」と子どもらしい言い間違え

(Sちゃん小1)

「息を吸うように言うよな。」と自分の口癖のことを言っていたKちゃん、「吸う」のではなくて「吐く」だよ。

(女子Kさん)

子育てでの  
困りごとや  
悩みごと...  
そんなときは

匿名OK  
相談無料

話を聞いて  
くれるんだ

スッキリ  
できたかも

なんとか  
やってみるか

子育てホットライン  
078-341-6493  
平日休日問わず9:00~18:00  
緊急の場合は夜間もつながります

子ども家庭支援センター  
ロータリー子どもの家

Instagram  
ホームページ  
Facebook

# 神戸真生塾子ども家庭支援センター

## ロータリー子どもの家

### 子どもを迎えるための準備講座

子ども家庭支援センターロータリー子ども  
家では、2018年度より神戸市子ども家庭セ  
ンター（児童相談所）からの委託を受け、未委  
託里親さん向けに『子どもを迎えるための準備  
講座』を開催しています。

講師の先生をお招きしての対面での本講座、  
里親支援専門相談員による研修や里親支援機関  
の紹介動画の配信、希望者のみではありますが、  
ファミリーホームでの体験実習を企画し、実施  
しています。

コロナ禍では対面での研修ができず、オンラ  
インで実施したこともありましたが、里親さん  
同士の交流や、神戸市内の里親支援専門相談員、  
子ども家庭センターの職員への相談等、顔を合  
わせてしかできない交流を大切にするため、対  
面での研修の機会を大切にしています。

これまで7年間で述べ410名の未委託里親  
さんが講座に参加さ  
れました。大学の教  
授や小児科の先生か  
らの専門的な知識を  
増やすための講義だ  
けでなく、先輩里親  
さんからの体験談を  
お聞きしたり、里親  
家庭で生活した子ど  
もの話をお聞きする  
機会も設けています。



未委託里親としてこの講座を受講した方が、里  
親さんとしての経験を話しするため、講座  
に戻ってきて下さるとい嬉しいこともありま  
した。先輩里親さんや子ども達からの話を聞く  
講座では、参加者の方がとても興味深く聞いて  
おられ『自分たちが里親になったらこんな里親  
になりたい、子どもとこんなことがしたい』と  
いう具体的な生活の場面を想像し、希望を膨ら  
ませておられました。

親子が共に生活することは決して楽しいこと  
ばかりではありません。それが里親子であれば  
なおさら難しい問題も出てきます。それでも子

### 神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 金岡 美衣 (子ども家庭支援センター 相談支援員)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
- 有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家 主任指導員)
- 苦情解決責任者 数田 紀久子 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 橋本 美代 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 秋本 真一 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 第三者委員 岡部 正範 (神戸市立自立援助ホーム子供の家 施設長)
- 中村 悦子 (当法人監事)
- 苦情受付件数 令和7年1月から7月末まで 0件

### 編集後記

新しい年度になり、たくさんの方の新人  
職員を迎えた神戸真生塾では、にぎや  
かで明るい毎日が流れています。今年  
も厳しい暑さではありますが、子ども  
たちは変わらないびのびと元気いっば  
いに過ごしています。

今回も皆様のご支援の下、広報誌  
「愛」53号を通じて子どもたちの成長  
や喜びをお届けできましたことを心よ  
り嬉しく思います。これからも職員一  
同子どもたちの心に寄り添いながら、  
日々の成長や喜びを共有し、共に成長  
していきたいと思えます。また、その  
姿を今後も広報誌を通して皆様にお伝  
えできるよう励んでいきたいと思いま  
す。

最後になりましたが、広報誌「愛」  
を発行するにあたりご協力いただきま  
した皆様、日頃よりご支援いただいで  
いる皆様へ心より感謝申し上げます。

鳥井 七海

子どもたちの生活は、新しい発見の連続で何物にも  
代えがたい素晴らしい経験になります。未委託  
里親さんが将来子どもを委託された時に、少し  
でも不安を軽減させ、子どもたちの生活はしんど  
いこともあるけれど幸せ！と思ってもらえるよ  
うな講座をこれからも開催できたらと思います。  
相談支援員 金岡 美衣